

# 生活 & 総合 navi

vol.77 DECEMBER 2019

## 【特集】

### 【座談会】

インクルーシブ教育の未来を考える

# みんなが 主役になれる 学校をつくらう (前編)

### 【連載】

Belief

村川先生のカリキュラム・マネジメントゼミ

野口先生のアクティブ・ラーニング教室

総合の現場から

ご当地情報局

生活・総合への提言

保育所、幼稚園の現場から

生活科を理科とつなぐ・社会科とつなぐ

©未来をになう子どもたちへ  
日本文教出版

日文教育資料 [生活・総合]



本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ!

## 定性的・定量的な見方・考え方はたからかせる ◀

### 理科 とつなぐ



大切にしたい、「あたたかいね」等の定性的な言葉。平成27年度版生活科教科書 下p.54

#### POINT

1. 諸感覚を通して得られる情報を大切に。
2. 動物や植物に諸感覚でふれあったときの質感などを定性的に表現する。
3. 測ったり数えられたりするものは定量的に表現する。

小林 辰至

上越教育大学名誉教授。1952年、岡山県生まれ。専門は理科教育学。タンポポを教材とした問題解決能力の育成に関する研究で、兵庫教育大学から博士(学校教育学)を取得。



## 生活科を

### ▶ 大がかりに、「大きなものづくり」に挑戦させる

「子どもまつり」や「動くおもちゃづくり」などの活動は、子どもたちができるだけ大がかりに取り組むことができるようにする。ゲームの装置や走らせる車など、子どもにとっては夢のような「大きなものづくり」に挑戦させるのである。そうすると、子どもたちは本物をしっかりと観察し、頭の中ではっきりとイメージして設計図を描かなければならない。作製の過程では、適切な材料を集める、頑丈にする、寸法を合わせるなど工夫が求められる。友だちと連携・協力して組み立てることも必要となる。「大きなもの」を完成させる活動では、いい加減にできない問題がいくつも発生する。問題解決のために子どもたちは必然性をもって知恵を絞ることや力を合わせることを経験する。このようにして計画的・組織的に物事に取り組むという知性と社会性が育てられていく。



大きな玉転がしの台。机を使って落差をさらに大きくしてもよい。平成27年度版生活科教科書 下p.86

### 社会科 とつなぐ



藤井 千春

早稲田大学教育・総合科学学術院教授。博士(教育学)。1958年、千葉県生まれ。茨城大学助教授などを歴任。ジョン・デューイの哲学と教育学を研究。

#### POINT

1. 夢のような「大きなモノづくり」に挑戦させる。
2. いい加減にできない問題解決に立ち向かわせる。
3. 計画的・組織的に取り組む知性と社会性を育む。

## 生活&総合navi vol.77

日文教育資料[生活・総合]

令和元年(2019年)12月10日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社  
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5  
TEL:06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。  
Design:Kurahashi Junpei(KN.PLANNING)  
CD33473

日本文教出版 株式会社  
<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5  
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16  
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14  
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市中区葵1-13-18-7F・B  
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1  
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690

【座談会】

インクルーシブ教育の未来を考える

インクルーシブ教育って何？

みんなが主役になれる学校をつくらう 前編

文／田中洋子 撮影／西田祥子

子どもの可能性を最大限に伸ばすには？



MURAKAMI KAYOKO

MIYAMURA YUJI

AR

ISHIDO HIROSHI

大人になる過程で大切なことを一緒に学んでいける

同じ一生懸命に暮らすのであれば、できるだけ笑って暮らせる方がいいのではないかと。たとえ泣きたいことがあっても泣いてしまっても、その後は笑える楽しいことを考えよう。中学校の担任だった先生が卒業サイン帳に書いてくださった言葉。ネガティブな性格だった私を強くしてくれた大切な言葉です。

我が家の子どもたちにも、寝る前には今日一日の楽しかったことを思いながら寝ようと言っています。そうすると明日も笑顔で元気に「おはよう」と、朝を迎えられるだろうと私が勝手に思っていました。子どもたちだけではなく私たち大人もこれから、良いことばかりの毎日ではないだろうけれど、一日の終わりに笑顔で「おやすみ」、そして笑顔で「おはよう」と朝を迎え、これからも過ごしていきたいと思っています。その笑顔が「お仕事と家庭を両立させて」と感じてもらえる理由なのだと思います。

子どもファーストで私も学んでいく 周りの方から、お仕事と家庭を両立させていて、すごいですね、立派ですねと言われることがありますが、私決して両立していませんし、できていないと思います。もし、そういう風に感じていただいているのであれば、きっと優先順位のバランスがとれた生活ができていくのかも知れません。今は、家庭と仕事。生活リズムは、子どもの一日一日成長していく姿を見ながら、お世話とお手伝いを「子どもファースト!!」。そんな日々の生活の中で、私も子どもから教えられ、ともに学ぶこと

今回はインクルーシブ教育に取り組む3名の先生にお集まりいただきました。幼児教育の現場、学習障害と英語教育、そして小学校での実践と、三者三様の熱いお話を、前後編2回にわたりお伝えします。

共生社会を支える「一人も置き去りにしない教育」の実現に向けて

誰もが社会に参加・貢献する共生社会の形成に向けて、教育分野では「一人も置き去りにしない教育」の実現が求められている。平成18年に国連採択された「障害者の権利に関する条約」では、障害のある子どもと、障害のない子どもが共に学ぶ、インクルーシブ教育を提言。その実践のため、①障害のある児童生徒が、初等・中等教育の機会から排除されないこと、②自分が暮らす地域社会で、質が高く無償の初等・中等教育を受けられること、③そのために個人が必要とする「合理的配慮」や支援を一般的に教育制度の下で受けられることが、重要だとされている。

一方日本では、学齢期の子どもの数が減少するなか、特別支援教育を必要とする子どもは増加。通級指導を受ける児童生徒数は、小学校で約9万7000人、中学校で約1万2000人と、平成29年度で合計およそ10万9000人を数えた。これは10年前のおよそ2.4倍にあたる。とくに近年は、



それぞれの専門分野の話に耳を傾ける。

注意欠陥多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）、自閉症スペクトラム（ASD）など、発達障害のある子どもの増加が顕著。まだ指導方法が十分に確立しておらず、教室では今日も教員たちの奮闘が続く。

インクルーシブ教育は、一部の学習者（例えば障害のある児童生徒）を、いかに一般の教育に統合するかという切り口で語られることが多い。だがそれはまた、教育制度や学習環境を学習者の多様性に対応できるように見直すための共生のアプローチでもあるのだ。こうした背景のもと、障害のある子どもたちの教育の実情と、それを支える学校現場の取り組みを考える。

Belief

やっぱり子どもファースト

女優 タレント 千堂 あきほ

Sendo Akiho

1969年生まれ。兵庫県尼崎市出身。かつてテレビドラマなどで活躍し、東京や関西で暮らしていたが子育て環境に引かれて2011年に北海道に移住。2人の娘は小学生。北海道文化放送「みんなテレ」にてコメンテーターも務めているが、子どもとの時間が一番。北海道の食や学校教育にも大きな関心が向く。

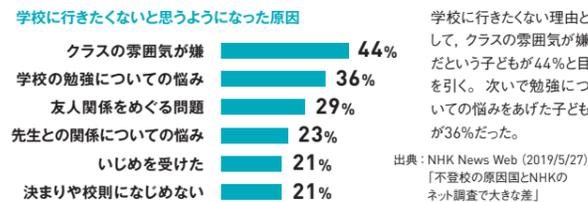


# 中学生の4人に一人が不登校予備軍

原因はクラスの雰囲気と学業？  
低年齢化も進む不登校の実態

■石堂 はじめに、お二人の取り組みについて教えてください。  
■村上 私は10年ほど前から、読み書きに困難のある発達障害の子どもたちに、英語指導をしています。一般に、学習困難があると英語の習得は難しいとされていますが、小学校で外国語が教科化されるとなると、そう言ってもいられない。現在はオンラインで、小学生から高校生までの読み書きが

図表①【不登校の要因について(複数回答)n=378】



苦手な子どもたちを集めて、有効な指導方法を実践的に研究しているところだ。

■宮村 私は5年前に自分の子どもが待機児童になったのをきっかけに、小規模認可保育園を始めました。子どもだけでなく、保護者もシニアも集まる、地域の茶の間のような場所にしたという思いで、「ちゃのま保育園」と名付けています。現在、0歳児3人、1歳児6人、2歳児10人を預かっています。

■石堂 僕は教員になって今年で28年目です。これまで僕たち教員は、支援が必要な子どもたちを取り残さないという気持ちで、インクルーシブ教育に取り組んできました。一方、支援を要する子どもの中には、素晴らしい感受性が豊かな子や、みんなが憧れるような能力をもつ子がいますから、クラスをその子に合わせるという考え方も、できると思うのです。「障害の有無にかかわらず」という発想を超え、すべての子どもから優れた力を引き出すインクルーシブ教育に取り組んでいるところだ。さて、ここから本題ですが、子どもの不登校の要因についての村上先生の資料を興味深く拝見しました(図表①)。子どもたちが

置かれていた状況を理解するため、最初に少し説明していただけたらと思います。

■村上 年々増加する不登校の割合が、社会的な問題になっていることはご承知の通りです。文科省の調査によると、中学校の不登校者は、平成29年で10万8999人と過去最高でした。中学生に対する別の調査では、不登校者は4・5%でしたが、不登校予備軍は23・6%と、すでに中学生の4人に一人にまでなっています。では何が原因で学校へ行きたくなくなるのか。それを調べたのがこの資料です。

学校に行きたくない理由で一番多かったのは「クラスの雰囲気」、二番目が「勉強についての悩み」でした。複数回答なので、いろいろな要因が絡んでいると思われます。■石堂 上位二つの回答には目を引かれますね。学級づくりがうまくいったときは、学力も向上するなど、クラスの雰囲気と学習には相関関係があることがわかってきています。

■村上 発達障害のある子どもについていうと、発達障害のある子は必ず学習でつまづく、というわけではありません。発達障害を本物の「障害」にしてしまおうかどうかには、環境要因が大いに関わっ

てきます。例えば、一人ひとりに目を向けた、丁寧なクラスづくりができていないか否かで、同じ子どもの問題行動が大きくったり小さくなったりするのです。

なかでも学習障害の有無は、本格的に学習が始まるまでわかりません。新出漢字が1年生のときの倍に加え、算数で九九が入ってくる小学校2年生くらいで、勉強がわからない子が出始め、学年の終わりごろから、学校への行きしぶりが始まる。そういう傾向が最近よく見受けられ、不登校の低年齢化が進んでいるように思います。

■石堂 昨年度僕は22年ぶりに2年生を担当したのですが、子どもたちの発達差がある低学年期の大切さを強く感じました。5歳までの子どもたちは、遊びそのものが学習です。でも小学校に上がると、机に向かっただけの勉強が始まる。この環境の変化も、小学校の低学年で勉強が嫌いになる引き金ではないでしょうか。そこをうまくつなげるよう、保幼小接続期カリキュラムが重視されているのはい

いことですね。  
■石堂 宮村さんは保育を通じて、  
専門家の協力を得て  
子どもの特性に合った  
保育を実践

## 保育士の特性も踏まえて子どもに寄り添う

幼い子どもの成長過程を見ておられますよね。子どもたちの特性の発達をどう感じますか。

■宮村 現場の保育士さんたちの声を聞くと、1歳児の時点ですでに一人ひとりの特性がわかると思います。ただ「特性がある」という事実を知って何かが変わるわけではなく、その子に合ったフォロワーをしながら、通常の保育を行っています。

■石堂 「その子に合ったフォロワー」ですね。そのなかで、特に気を付けていることはありますか。

■宮村 児童心理司さんや言語聴覚士さんなど、子どもの発育に関するプロが集まる一般社団法人と一緒に、3年前からオリジナル研修を行っています。

■村上 それはすごくいいですね。教員にもそれぞれ特性や個性があるのを、私たちはすっかり忘れてちです。

■宮村 ええ、否定的な言葉を使わないとか、子どもに寄り添うとか、保育士さんみんな十分わかっています。でも現場でその通りにやっても、うまくいかないことがある。そこに対応するために、専門家の力を借りています。

■石堂 僕らが教員研修を担当するときは、授業づくりや学級経営など、とかく方法論が目がいきがちです。でもそれだけではなく、一人ひとりの先生が長所を発揮し、学年全体がチームとしてやっていくという、もっと大きな視野も必要ですね。

■村上 石堂先生は、子どもの特性について何だと思われませんか。

■石堂 小学生ではよく、その子が夢中になってやることや、こだわっていることがあるでしょ。あれも特性だと思っただけです。勉強は苦手だけど、気持ちが良いといったこともそうです。

■村上 人間というのは、何もかもが過不足なくできる、丸い玉のような存在ではなくて、みんなそれぞれ得意なこと苦手なこともあって、どこか存在だと思っただけです。どんな子どもにも得意なことはあり、そこに光を当ててあ

【子ども一人ひとりの可能性を最大限に伸ばすための環境づくり】



個々の子どもとクラスをつないでいく。「子どもの特性をクラスに引き込むことで、学びが広がり、子どもの自尊心も高まることに期待する」と石堂先生。



英語の教育では

村上 加代子

甲南女子大学准教授

英語教育UD研究会会長。英語の読み書きに困難のある児童生徒を対象とした「オンラインチャレンジ教室」顧問。著書に『読み書きの苦手な子どもたちへの英単語指導ワーク』(明治図書)など。



経験を通じて

宮村 柚衣

ちゃのま保育園代表

2014年2月、自分の子どもたちが待機児童になったことをきっかけに行政に文句ばかり言っただけでウジウジしている自分が嫌になり、働きたいお母さんが安心して子どもを預けられる保育所をつくらうと、2014年10月、準備期間半年でちゃのま保育園を設立。



発想を変えて

石堂 裕

たつの市立新宮小学校 主幹教諭

学級担任としての「子どもたちと創る」授業づくりは、毎月、県内外からの授業視察を受ける。また校内研修支援コーディネーターとして、授業改善やカリキュラムづくりのサポートも行う。

図表②【インクルーシブ教育の環境づくりに必要な三つの要素】

<p><b>1. 教室環境のユニバーサルデザイン化</b></p> <p>安心で安全な学習環境の確保、提示物や視覚化の工夫。</p>
<p><b>2. 学習・指導方法のユニバーサルデザイン化</b></p> <p>個のニーズの把握、柔軟で多様な選択肢のある指導。</p>
<p><b>3. 教科ごとのつまずき傾向の蓄積</b></p> <p>早期発見、早期対応につなげる。</p>

学習障害・発達障害のある児童も含めて、みんなが学びやすい学習環境をつくるために、村上先生が提案する三つのポイント。

きるよう、柔軟で多様な選択肢を最初から用意しておきましょうという意味です。

■宮村 多様な方法を取り入れることで、幼児教育から小学校教育への移行の壁も乗り越えられると思いますね。「学習・指導方法のユニバーサルデザイン化」があらゆる場面に導入されたら、小学校に進んだとたんになんか辛くなるか、遊びから勉強に変わったとたんになんか辛くなるかといったハレーションが、だいぶ減るのではないのでしょうか。

■石堂 その結果、クラスの雰囲気や嫌だとか、勉強についての悩みとか、不登校の大きな原因を解消することにもつながりそうですね。

■村上 多様な学び方を用意したとして、そのキーワードは、「子ども自身が選ぶ」ということです。私たち教師が最終的に目指すのは、子どもの学習者としての自立です。

**学習・指導のユニバーサルデザイン化で多彩な学び方の選択肢を用意する**

■村上 表現の選択肢をいくつか用意しておくことは、とても重要です。書くのが苦手な子どもも参加できますからね。インクルーシブ教育の環境づくりに必要な三つの要素のうち、2番目として、「学習・指導方法のユニバーサルデザイン化」があります(図表②)。子どもの「特性」を「障害」にしてしまわないために、どの子どもも参加で

■宮村 保育園の場合は、子どもはまだ自分で選択できませんから、私たちは一人ひとりの子どもをそ



人間はそれぞれに得意なことも苦手なこともある、でこぼこした存在だと思つたのです(村上先生)

協力：一般社団法人Kidsサポートデザイン

**【ちやのま保育園：言葉を育む子どもたちへの関わり工夫】**

	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス
<b>朝の会・帰りの会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●手遊びうたの中で、身体の部位やいろいろな名詞を強調して伝える。</li> <li>●「今日何をしたか」を2歳児さんが答え、他の子は見て学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●紙芝居や歌の中で、名詞・色・数字を強調して伝える。</li> <li>●体操をして、身体部位の名前の認識や身体のイメージを育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●紙芝居や歌の中で、名詞・大小・色・形を強調して伝える。</li> <li>●手遊びうたの中で指の動きの発達を促す。</li> <li>●出席の際に自分の名前を大きな声で言うことで、発声・発音の力を育てる。</li> </ul>
<b>お散歩</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●季節の草花を見ながら、季節の歌を歌う。</li> <li>●地域の方との交流を通して、挨拶や話ことの楽しさの見本を大人が見せる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもの目線になって季節の言葉、感覚の言葉と一緒に使う。</li> <li>●諸感覚を刺激する遊びをたくさん取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ボール遊び、投げる、階段の昇り降り、ジャンプなど身体を使う遊びをたくさん取り入れる。</li> <li>●草木・花の名前など季節の言葉を伝えていき、記憶する力も育む。</li> </ul>
<b>自由遊び・製作</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●砂遊びの中で、感覚遊び・みなし遊びを取り入れる。</li> <li>●取り合いのとき、「貸して」「ありがとう」の声掛けの見本を見せる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分で選んで伝える機会をたくさんつくる。</li> <li>●「何をつつたの?」「何をしたの?」と質問し、先取りせずに答えを待つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●おまごとの中で、食べ物名前や色、やりとりの言葉を伝えていく。</li> <li>●ストローも通し、トング、はさみなど手先を使う遊びをたくさん取り入れる。</li> </ul>



**【ちやのま保育園の大丈夫!カレンダー】**

子育てに疲れたり、不安になったりしている保護者に向けた保育士からのメッセージと、子どもの発達に関わる多分野の専門家からのアドバイスが書かれた日めくり万年カレンダー。  
制作：ちやのま保育園 監修：一般社団法人Kidsサポートデザイン

小1と小2だそうですが、保護者目線ではインクルーシブ教育をどう考えていますか。

■宮村 うちは2年生の子が定型発達で、1年生の子は自閉症スペクトラムの発達障害があります。親としては下の子の小学校入学が不安だったので、ふたを開けてみたら、定型発達の子どものほうが登校しづらくなってしまいました。学校には行くのですが教室に入れない、人の目がこわくて緊張でお腹が痛くなってしまいます。それが半年くらい続いたので、一週間ほど学校を休ませて、私の愛着形成をもう一度見直ししました。その後、登校班を変えるなどして少し環境を変えたところ、徐々に学校へ行けるようになりました。

■石堂 そういう経験を、保育園の保護者にも話すのですか。

■宮村 話しますよ。実は下の子どもの発達障害に最初に気付いたのは、「ちやのま保育園」の保育士さんたちなんです。おかげでう

ちの子は2歳の段階で、早期発見早期療育ができました。でも一般的には保育現場はすぐくナイーブで、保育士さんが発達障害の可能性を伝えたとたん、保護者の怒りの矛先が保育園に向かうケースがすごく多いんです。ですから普通は、保育士がお子さんたちの障害に気付いても保護者には話しません。

私は自分の経験もあって、それではいけないと思うので、「ちやのま保育園」では今年からはつきりとして伝えるようにしました。それもいきなり伝えるのではなく、発達障害に関する正確な知識を保護者会で共有し、そのうえで個別に話します。毎日子どもを見て担任の保育士と園長が子どもへの愛情をベースに話すので、保護者も受け入れてくれますね。

■村上 たしかに、保護者の理解が得られるか、得られないかで、状況はすごく変わってきますからね。2歳で発達障害がわかった子

が、今、小学校でこんなに元気でやっていると、ロールモデルになるケースがあれば、親はもっと安心できるだろうと思います。

■石堂 学校でも、「教室に居てくれさえしたらいい」といった感覚を教員がもってしまつては絶対だめです。個人的には、発達障害ではなく発達差としてとらえ、それこそ丸ごとその子の存在を受け止める。子どもどうしの関係でも、互いに認め合える環境を教員が努めてつくっていく。それが学校に子どもの居場所をつくることになりま

■村上 私の子どもも、小学1年生でアスペルガー症候群と診断されました。小学校に入つてしばらくしたとき、クラスにはADHD傾向がある子がほかにもいて、うちの子はその「トリオ」の一人だと、担任の話を聞いて知りました。「いつものあの3人ね」という位置付けで、クラスに居場所を得たようでしたが、先生に悪意はないものの、直截的な言い方にはやはりショックを受けました。

ADHDの症状は成長とともに変わつていき、元気が過ぎる3人組もやがて消滅しました。いずれにしても、クラスに子どもの居場所があることは大事だし、親も状況を知つておいてよかったのだらうと、今は思います。

のまま丸ごと受け止めます。能力を伸ばすという以前に、自分は愛されて育つていくという愛着形成の土台をつくるのが、この年代では最優先です。

■石堂 ネットワークの子どもの小学校に上がつて、発達障害と似た症状が出るという話はよく聞きます。教員がそれを困り感だとらえてしまつと、その子の本心に入つていくことはできません。そこで宮村さんがおっしゃる、「丸ごと受け止める」が必要ですね。

■村上 先生がその子を知ろうという態度を示すだけで、開く扉は確かにありますよ。信頼感が生まれると、変化が出てくると思います。

**保護者の目線で考える**

■石堂 宮村さんのお子さんは、

どの図(図表②)の1番目、「教室環境のユニバーサルデザイン化」に他なりません。

■宮村 うちの保育士さんたちがいう「丸ごと受け止める」には、保護者も含まれます。たとえば朝ごはんがつかれないお母さんなど、それはそれでよしとして、朝ごはん抜きの子どもに、園で栄養のあるものをたくさん食べさせる。そんなところから始めて、お母さんにとつても、子どもの保育園が安心できる居場所になると、こちらの話にも耳を傾けてくれるようになっていきます。

■石堂 ありがとうございました。後半では、インクルーシブ教育に資する取り組みについても話していきたいと思つています。

**《次号に続く!》**

後半では、学習障害のある児童生徒への英語指導の実践例などを通して、無理なくインクルーシブ教育を定着させるために学校現場で何が必要か、一人ひとりの教師に何ができるのかを考えます。



**実践写真**

「優しさのたね」「ひらめきのたね」「気付きのたね」が入った植木鉢。子どもたちは、自分ができたことや気付けたことを葉っぱに書いて貼っていく。

Active learning class

野口先生のアクティブ・ラーニング教室



野口 徹

山形大学教授。専門は生活科・総合的な学習。著書に『子どものくらしを支える教師と子どもの関係づくり』（ぎょうせい、共編著）など。

高等学校の「総学」学習発表会から見た小・中学校「アクティブ・ラーニング」の重要性

いよいよ来春から、全国の小学校では最新の学習指導要領による教育活動が全面実施となります。この時期はどちらの小学校でもそれに向けて最終チェックを行っていることと思います。私も様々な学校からお声がけをいただき、生活科を含めた各教科の授業を拝見する機会が増えているところです。いよいよ新しい教育が本格化しているのだ、と感じています。

この学習指導要領の全面実施の時期については、中学校の場合は再来年の2021年度からであり、高等学校に至ってはさらにその翌年の2022年度から、となっています。高等学校の移行期間については今春から始まったばかりです。

ところが、全面実施の時期を考えるとずっと先に感じられる高等学校が、実はすでに新学習指導要領に向けてどんどんと準備を積み重ねており、意欲的で魅力的な授業実践を行っている、ということをご存じでしょうか。今回は、そんな「いまどきの高等学校」の様子についてお知らせしたいと思います。

今回ご紹介するのは、山形県立山形中央高校です。こちらは、「普通科・体育科」を併設している県内唯一の学校です。部活動がとても盛んで、野球部は何度も甲子園に出場しており、卒業生にはプロ野球で活躍している選手もいます。また、2010年バンクーバーオリンピック・スピードスケート男子500m銅メダリストの加藤条治選手もこちらの出身です。

私は、今年の1月に山形中央高校を訪問しました。その日に、1年生生徒による「総学」（高校では全国的に「総合的な学習の時間」をこのように呼称しています。新しい学習指導要領では、高等学校は「総合的な探究の時間」となりますから、

この呼び方も変わるかも知れませんが）の学習発表会が行われていたからです。こちらの高校では「総学」を「未来へのドアプロジェクト」とも呼んでいます。学校のHPでは、総学の目標として、「探究の見方・考え方はたからせ、教科や科目の枠を超えた横断的・総合的な

学習を行うことを通して、自己の在り方・生き方や進路と合致した課題を自ら発見し、よりよく解決していくための資質・能力を育成する」としています。また、その資質・能力は、「与えられた材料から必要な情報を引き出し、活用する能力」と定義しています。

この資質・能力を、「ゼミ」に分かれて活動しながら育てていくシステムです。「ゼミ」は、生徒自らの関心や進路などの

方向性等を考えて選択し活動する専門グループのことで、山形中央高校では、「国語、数学、社会、理科、英語（国際）、町づくり、医療福祉、教育、体育」等に分かれています。

さっそく、各教室を会場とした「発表会」をのぞいてみました。どこも白熱したものばかり。例えば、「教育ゼミ」を見てみると、女子数人のグループがプレゼンテーションを行っていました。その内容は、どうやら『泣いた赤鬼』に関するもの。これは「日本のアンデルセン」と呼ばれた山形県高島町出身の作家・浜田広介のよく知られた童話です。調べてみると、昭和30年代から当時の文部省が出した道徳資料に掲載された歴史があり、現在の国語の教科書でも収録されているようです。では、この女子グループは、この童話の何をテーマに発表しているのでしょうか。そのテーマは、「青鬼の自己犠牲の愛は、小学校の何年生の国語の授業の教材として成立するのか」というものでした。とても骨太な内容です。彼女たちは、学習指導要領や教科書の内容の精査や分析をかなり行った上で発表をしていたのです。他のグループの発表を見ても、「室町時代の『徳政一揆』に参加した農民の行動は現在の刑法からみて有罪か無罪か」「留学生の数やTOEICの点数で日本を上回る韓国と日本の小学校期の英語教育を比較して、日本の小学校の英語教育はどのようなものであるべきか」など、とても高校1年生の発表とは思えないものです。尋ねてみると、どのテーマも自分たちで設定した、と教えてくれました。つまり、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」を十分に行った上で力強い「まとめ・表現」としての学習発表会であったのです。上述したレベルであるのも当然のことなわけです。

担当の先生のお話によると、山形中央高校の総学では、下のようなハンドブックを生徒一人ひとりに持たせて、自分で探究を進めていけるように配慮しているとのこと。中身は論理的な思考を行うためのポイントや思考ツール等の活用方法、参考となる資料などが列記されています。つまり、探究的な学習を自力で行えるようになっているのです。先生たちは、そういった学びの場面における各分野のアドバイザーとして活躍する、というわけです。お話を伺っていて、先生たちも楽しそうに関わっているのがよく伝わってきました。

このような取り組みを行っている高等学校は、全国に広がっています。自分でどんどん課題を設定しながら生徒は学んでいます。そう考えると、小学校や中学校の段階で、「アクティブ・ラーニング」を十分に展開しておかないと、高校生活に間に合わないかも知れませんね。



Curriculum management seminar

村川先生のカリキュラム・マネジメントゼミ



村川 雅弘

甲南女子大学人間科学部教授。専門は教育工学、カリキュラム開発、生活科・総合的な学習。近著に『学力向上・授業改善・学校改革 カリマネ100の処方』（教育開発研究所）がある。

ラグビーチーム再生のカリキュラム・マネジメントに学ぼう

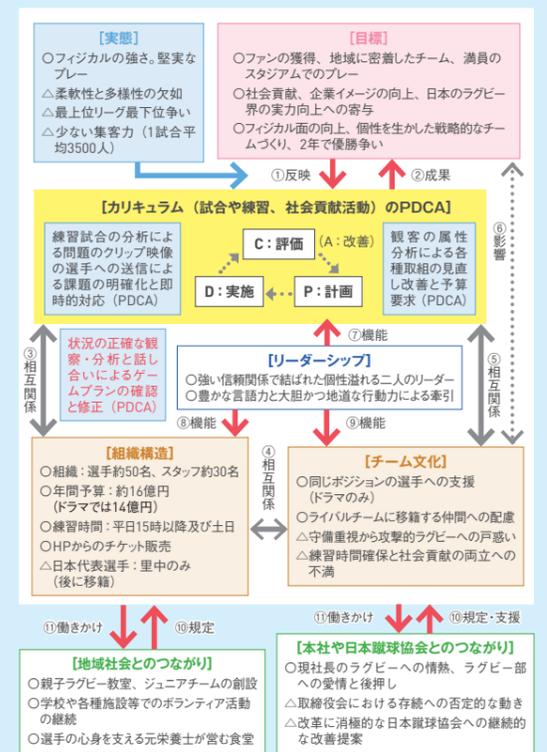
【新生「アストロズ」のカリキュラム・マネジメントを探る】

今号では、ラグビー熱の引き金ともなった「トキワ自動車アストロズ」を大阪教育大学の田村知子教授のカリマネ・モデル1で分析する。『ノースサイド・ゲーム』（池井戸潤、ダイヤモンド社、2019年）及び日曜劇場『ノースサイド・ゲーム』（TBS系列）を参考にした。

まず、二人のリーダーにふれたい。元経営戦略室次長の君嶋隼人GMと大学3連覇を果たしながらも更迭された柴門琢磨監督である。信頼関係を築きチームの外と内を守っていく。両者が語る言葉はある時は闘争心を鼓舞し、ある時は冷静さを取り戻させる。アストロズは守備重視の堅実なチームだが、お家芸だったパスワークや柔軟で華麗なバックス攻撃が影をひそめ、近年は社会人ラグビー最上位リーグで低迷している。入場者は1試合平均3500名程度に止まっている。二人は以下の目標を掲げる。一つは社会貢献、企業イメージの向上、日本のラグビー界への寄与である。一つは強みであるフィジカル面をさらに向上させ、個性を生かした戦略的なチームづくりを行い、2年で優勝争いができるチームにする。そして、スタジアムをファンで埋めつくす。

日々の練習試合を記録・分析し、問題を各選手に発信し、翌日の練習でその改善を図るというPDCAサイクルを回すとともに、試合中のグラウンド内においても状況を正確に観察・分析し、各自が考え、話し合い、ゲームプランの確認と修正を行う。フィジカル面の向上としては相撲部屋での特訓を行ったり、ドラマではタックルの練習にレスリングを取り入れたりと大胆な策をとる。ジュニアチームのコーチやボランティア活動は社会貢献の目標達成だけでなく選手のメンタル面にも影響を及ぼしていく。これらが実を結び、入場者数やファンクラブの拡大につながる。ファンの大きな声援は選手一人ひとりを鼓舞し、チーム力を引き出し、勝利に貢献する。

このアストロズの存続に大きく立ちふさがるのが本社取締役会である。特に滝川営業本部長は脅威であったが、厳しくも射た指摘が君嶋GMの改革への意欲を高めていく。君嶋の「本気」が岩のように強固だった協会をも変えていった。



MANAGEMENT POINT 君嶋と柴門に学ぶカリマネのポイント

- 組織のメンバー一人ひとりのよさや状況を理解し対応する
  - 変えたいという本気が人を変え、組織を変え、成果をもたらす
  - 経営資源が同じでも経営戦略により結果は異なる
- 小説から生き方を学ぶことが多い。ビジネスの世界を扱うものは特にそうである。今回も君嶋と柴門からカリマネにつながる多くのことを学んだ。柴門も就任前に選手一人ひとりに手紙を出す。過去の試合映像から一人ひとりのよさや課題をきめ細かく分析し、メッセージを送る。就任後も選手一人ひとりを観察し、個の才能を生かした戦術につなげる。不断の分析によりきめ細かくPDCAサイクルを回し、選手起用にも生かす。さて、学校においても素晴らしい校長は足しげく教室

を訪れ、子どもや教員を熟知している。だから臆することなく学校改革に向けた確な判断が下せる。柴門の君嶋に対する「本気」ってのは、相手に伝わるもんなんだよ。精神的な成長は、チームにとっても凄いい力になる。スキルやフィジカルをいくら鍛えても、それには及ばない」も示唆に富む言葉である。「学校を変えるんだ。授業を変えるんだ」という校長をはじめとする教職員の本気が学校改善の源である。予算や時間や人材等、学校の資源は変わらない。しかし、戦略によりそれらの資源がもつ価値は大きく変わり、異なる結果を生むこととなる。

田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵編著（2016）『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』ぎょうせい



今回は、山口県のご当地キャラ「ちよるる」と県西部下関市豊浦町発祥の麺料理「瓦そば」をピックアップ！歴史好きには明治維新の原動力として知られ、歴史と文化の魅力溢れる「山口県」のご当地情報局です。

ぶご当地キャラ

Character

山口県 PR本部長

ちよるる



山口県の魅力をPRするために、元気いっぱいお仕事頑張ります。



名前の由来

名前は、山口弁の会話の語尾に使われる「ちよる」をアレンジしたもの。頭は「山」、顔は「口」で、山口を表現しています。体の色はグリーンが「山口の自然」、レッドは「山口の歴史」、オレンジは「山口のグルメ」をイメージし、全身で山口の魅力を伝えているよ！

やまぐちのこと好きになってくれるとうれしいな。



プロフィール

名前	ちよるる	性格	明るく元気！でもちょっぴり恥ずかしがりや
誕生日	3月18日	口癖	ちよる
出身地	山口県の山のおく(ちよるるの住む村)	特技	投げキッス！、ダンス
所属	山口県		

主な活動

山口県の魅力を全国にPRすること。



子どもたち、先生へのメッセージ



やまぐちには、魅力いっぱいステキな場所がたくさんあるよ。ぜひ遊びに来てね。

ぶご当地料理

Dishes

山口県西部の郷土料理

瓦そば



焼き具合はお好みでどうぞ

取材協力：「福の花 四谷店」 東京都新宿区四谷1-9 三宅ビル2F

瓦そばとは…

山口県の川棚温泉の名物料理として知られる「瓦そば」。近年、その印象的な盛付けと美味しさから、下関市をはじめ山口県内各地でもご当地グルメとして広まり、山口県出身者などにより県外でも提供する店が存在するほどの人気麺料理です。

もともとは1877年（明治10年）の西南戦争の際に熊本城を囲む薩摩軍の兵士たちが、野戦の合間に瓦を使って野草、肉などを焼いて食べたという話を参考にして、1961年（昭和36年）に川棚温泉の旅館で宿泊者向けの

料理として開発したことがご当地グルメとしての始まりだそうです。これが評判となり川棚温泉の他の旅館でも提供され始め、いまや山口県のご当地グルメとして認知されるまでになっています。

家庭では瓦は手に入りづらいのでホットプレートを使ってつくることが多く、焼いて食べる茶そばの「お焦げ」がカリカリで子どもたちにも大人気。焼きながら食べる料理なので学校給食にはちょっと難しいですが、間違いなく地域の子どもの「ふるさとの味」になることでしょう。

つくり方



1 茶そばを蒸し、蒸し上がったら油に絡めます。  
2 熱した瓦に油を塗って茶そばをのせます。  
3 茶そばの上に錦糸卵と肉、葱をのせ、海苔、スライスレモン、もみじおろしをのせたら完成です。  
4 瓦に広げて焼きながら温かいつゆにつけていただきます。

はじめに

認知症対策を強化するために、政府は発症や進行を遅らせる「予防」に初めて重点を置いた新大綱を6月に決定した。認知症の人が暮らしやすい社会を目指す従来方針の「共生」とともに、「予防」を二本柱に掲げている。認知症とともに生きている人を社会全体で支えるために、認知症への理解を深める普及や啓発を推進していくことは超高齢社会に突入した我が国にとって重大な課題である。認知症になっても安心して暮らせる社会への道はまだ途上であるが、認知症サポーター養成講座を開催している小・中・高等学校は増加している。

全国キャラバン・メイト連絡協議会から報告されている「学校サポーターの内訳(表)」では、平成17年度からの累積として、平成30年3月31日現在では、小学生

96万2051人、中学生82万745人、高校生25万1313人となっている。そして、平成31年3月31日現在では、小学生121万4628人、中学生100万658人、高校生30万5913人である。つまり、平成30年度には小学生25万2577人、中学生17万9913人、高校生5万4600人もの児童生徒が認知症サポーター養成講座を受けて、認知症サポーターになっているのである。



自治体・地域での認知症サポーターキャラバン実施状況		
	平成30年3月31日現在	平成31年3月31日現在
小学生	962,051人	1,214,628人
中学生	820,745人	1,000,658人
高校生	251,313人	305,913人

# 生活・総合への提言

## 高齢者への理解をより深めるために

道徳科授業を「総合的な学習の時間」の自分との関わりを考える時間に位置付けた実践

本学・看護学科の学生が司会する「〇×クイズ」(認知症についての学習のまとめを〇×クイズで復習)。

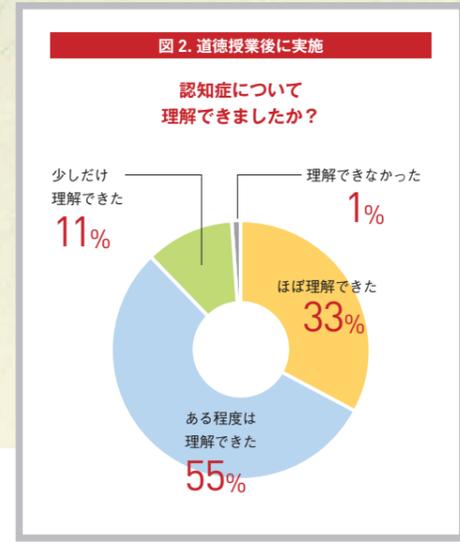
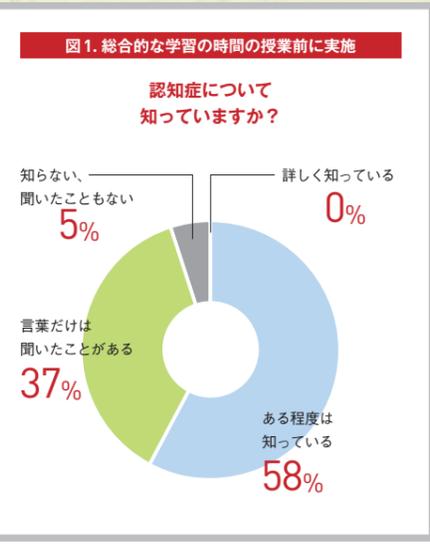


本学・看護学科の学生による「ロールプレイング」(高齢者の人が道に迷っている場面)。

総合的な学習の時間(サポーター養成講座を職場体験学習の事前学習として位置付け)と関連した道徳科授業(日本文芸出版「新あすを生きる」2年「コトコ」の涙)を実施した。認知症の症状がある高齢者が登場する内容で、生徒の書いたワークシートには、「高齢者の方は子どもじゃなくて、ちゃんとブライドがあって、それをわかったうえで行動しなければいけない。そして、尊敬しなければいけない。自分がよかれと思ったことでも、高齢者の方にはそれが望みでないこともあるから、少しずつ打ち解けていくことが大切ではないか」ということがわかった。これを職場体験学習につなげていきたい。「今回の道徳は、これからも考え続けなければならないと思いました。理由は認知症の方が登場する話だったからです。高齢者の気持ちや考えをわかってもらうことの大切さを学びましたが、こ

このことは認知症の方だけでなく、友だち関係でも役立つので勉強できてよかったです」など、認知症そのものに関する内容だけでなく、それらを自分や家族をはじめとする自分の周りの人々との関わりの中で考え、自らの課題としての学びにつなげていこうとしている記述が多く見られた。また、図1・2は授業前後に実施したアンケート結果である。

サポーター養成講座を単発的な学習として実施した場合、「自分は認知症になりたくない」「認知症は怖い病気である」など、認知症のみならず、福祉そのものにマイナスイメージを植え付けてしまう可能性もある。そこで総合的な学習の時間の学習活動として実施し、道徳科授業で自分はその課題に対しこれからどう対応していくかを考え、話し合うなどしたことにより、高齢者への理解を深めることができた。



「高齢者との関わり」について説明。



日本の少子高齢社会について説明する。



# 保育所、幼稚園の現場から

墨田区施設型小規模保育所  
 ちゃのま保育園  
 代表：宮村柚衣  
 園児数：19名（0歳～3歳未満児まで）



## 「保育士満足度」を高めたら 保育の質が変わった

本号の特集（p.1～5）にも登場する宮村柚衣さん（合同会社はひぶぽ代表社員。全国小規模保育協議会理事）が代表を務めるちゃのま保育園。宮村さんは2014年に、自身が待機児童保護者になったのをきっかけに、「働きたいお母さんが安心して子どもを預けられる保育園をつくろう」と、その半年後の10月に認可外保育園として、ちゃのま保育園を立ち上げる。15年4月から墨田区施設型小規模保育所に移行し、現在に至る。

### 従業員満足なくして 顧客満足なし

東京都墨田区でちゃのま保育園を運営する宮村柚衣さんは、5年前を振り返ってこう話す。

「営利企業では、顧客ファーストで売り上げを伸ばしていくのが一般的です。保育園であれば『顧客＝保護者』の満足度を上げて売り上げを伸ばさなければ、保育士さんたちの給与も増えませんが、まずはその考えを園内で共有しようと思いました。けれど、そうすればするほど、保育士さんたちの溝が深まっていきました」

当時、宮村さんは「待機児童保護者になったのをきっかけに自分で保育園をつくったお母さん」としてメディアでクロージアアップされていた。一方で、異業種から保育業界に参入した経営者として、これまでの常識、では進まない保育の現場に焦りを覚えていた時期でもあった。

そんな時に出会ったのが、従業員満足なくして顧客満足はないという考え方だった。改めて、現場で働く保育士たちに目を向けてみると、彼女たちは些細なことでも

常に子どもファーストで行動をしていた。「みんな自分の給与が増えることよりも、子どもの発育を最優先に考えていたんです」

### 営業度外視で アプローチを変えた

そこで、宮村さんは営業度外視で、ひたすら保育士の満足度を上げる方向に舵を切った。これまでもっていた「従業員は管理しないと動かない」という考えも切り替え、まずは、自分が園長職を退き、現場はすべて保育士に任せることにした。

「園をつぶすことになること以外、保育士さんたちの要望に対してノーと言わないと決めました。実際そうしてみると、保育士さんたちから理解しがたい要望なんて出てこないんです。みんな保育は福祉であることをわかっているから」

「より発育段階に合ったテーブルを購入したい」「子どもたちにとってよい食材とよいメニューで給食をつくりたい」。宮村さんが経営者として保育士のこうした願いに誠実に応えていくと、次第に保育士たちが自ら「よい保育」を

考え、実現するために動き出すようになっていった。

「かつてはいい保育をするよう指導していたはずが、先生たちの満足度を高めることに注力したらその必要がなくなりました。待遇を改善していくと、保育士さんたちは保育のいろいろなところに目が向くようになる。この点がよくなったから「さらに子どもたちの発達を促すために、こちらもよくしてください」って」

ちゃのま保育園の考える「よい保育」とは何か。どんな子どもを育てていきたいのか。「その答えは一つではなく、保育士さんの数だけ願いや思いがある」と宮村さん。例えば、自己肯定感を伸ばすことを重視する。ベテラン保育士さんであれば、嫌いな食べ物でも食べても食べることで咀嚼する力、生きるために必要な力を付けてほしいと考える若い保育士さんもある。「うちは育てたい子どもの姿をある程度の方針としては決めていま



## ちゃのま保育園の保育理念と基本方針

### 展望 Vision

保育士が保育士として一生涯、楽しく働ける保育園。

### 使命 Mission

- 保育士が常に笑顔でいられるように、よりよい保育を目指せる人員配置。
- 保育士が安心・安全に働き続けられる、コンプライアンスの順守。
- 保育士が密に会話し、保育士どうしなんでも話し合える風通しのよい職場風土。

### 保育方針 Policy

日常生活の中で自然に発達を促すことができる保育。

### 道しるべ Way

#### 【園の雰囲気づくり】

- ① 子ども、保護者と職員が密に関わり、家庭のような近い距離での保育を行います。
- ② 安心・安全を前提に家庭的な保育を大切にしていきます。
- ③ 毎日の挨拶をしっかりと、明るい雰囲気づくりをします。

#### 【子どもや保護者に対して】

- ④ 子どもの気持ちに寄り添い、言葉かけ、スキンシップを心がけ、子ども一人ひとりの個性に応じた対応をしていきます。
- ⑤ 子ども、保護者や職員に笑顔で接し信頼されることを目指します。
- ⑥ 子どもが気持ちを出せるように、じっくり待つことも大切にします。

#### 【職員間の心がけ】

- ⑦ 職員どうしが声を掛け合い、働きやすい職場を目指します。
- ⑧ 常に、他の職員のいい所を見つけ出し、言葉で伝えたり自分に取り入れれたりします。
- ⑨ どんなことがらも職員全体で共有し、職員全体で話し合い、報・連・相を重視します。
- ⑩ 思いやりをもち、自ら率先して行動します。

せん。ケースごとに「その都度」保育士の年齢や経験に関係なく「必ず全員で、話し合ってつくっていく」保育を目指しています」

現在、ちゃのま保育園には園児19名の定員に対して、保育士が10名いる。無理のない人員配置も保育の質の確保には欠かせないと考える。例えば、散歩の途中で座り込む園児がいた場合、急かすことなくその園児を見守る保育士と、その他の園児を連れて先へ進む保育士とに分かれることができる。保育士が園児一人ひとりに寄り添える環境づくりを進めている。

こうした一つひとつの積み重ねが、保護者からの「保育士さんたちがかうちの子（個それぞれ）を見ていてくれる」「子どもに対して誠実に向き合っている」という声につながっていく。

口コミで人気を博すちゃのま保育園は開園以来、一度も定員割れがなく、一人の退職者も出していないという。宮村さんは、保育士のさらなる働きやすさを求めて、目指す人物像やそれに伴う給与体系の共有、保育士が社労士に直接相談できる制度など「労働環境の見える化」を進めている。



園長にとって書類作成が負担であれば、その業務は外して得意な先生に事務手数料を支払って割り振る。「その分、園長は、得意な保護者対応に力を注ぐことができる。「得意なことに集中する」という選択ができるようにしています」（宮村さん）。

## スマートフォンやタブレットをかざすと動画が楽しめる！

- ① スマートフォンまたはタブレットで、ストアアプリを起動します。
- ② 「カザスマート」で検索し、アプリをダウンロード。
- ③ 「カザスマート」アプリを立ち上げます。
- ④ ARマークがあるページで紙面全体にかざすと、動画が始まります！



★P.2～5（特集）で視聴できます。  
 ※動画は、2020年3月31日まで視聴することができます。